

## 「中谷小学校の奴踊り伝承活動の取組」

### 1 学校名

曾於市立中谷小学校

### 2 学年・人数

1年生から6年生（約20人）

協力者：本校卒業生で協力できる中学生

### 3 日時・場所

#### (1) 練習の日時・場所

毎年4月開催の「溝ノ口岩穴祭」における披露までの約6か月間  
9月～3月（月2回）19：30～20：30（本校体育館）

#### (2) 発表の日時・場所

毎年お釈迦様の誕生日（4月8日）に一番近い日曜日  
令和5年4月9日（日）午前中実施

※ 令和6年は4月7日（日）の午前中実施予定  
溝ノ口洞穴の岩穴祭で発表

※ 溝ノ口洞穴「(昭和30年1月14日 県指定天然記念物)」

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

#### (1) 名称

奴踊り（やっこおどり） [曾於市指定無形民俗文化財]

#### (2) 由来

戦勝祝いの踊りとして始まったなど諸説あるが、踊りの構成も様々で由来や開始期は定かではない。現在の伝承者によると、溝ノ口洞穴の所在する溝ノ口集落の若い女兒だけで踊っていたのが、子供の減少につれ男児も加わり、やがて小学校区全体で取り組むようになったとのことである。現在は一部卒業生も協力して継承している。

#### (3) 構成等

色鮮やかな衣装を身に纏い、鉢巻をし、鼻に白い縦筋のある独特の化粧をした男女が扇子を持って一団となって踊る。踊りは、戦いにちなんだ動き、数え歌、嫁に行くまでを表現したものなど数曲で構成されていて、太鼓や三味線の生演奏（CDによる演奏になることもある）に乗せて踊る。

### 5 保存会や地域との連携の具体

基本的には溝ノ口集落の住民で保存会を組織して伝承活動を行っているが、本校全児童が踊り手となってきた頃から子ども会育成会（小学校の全保護者で構成）も、練習や行事の参加・運営に協力している。

岩穴祭では、同じように地域で伝承されてきた成人男子による「棒踊り（刀踊りと隔年で披露）」と前後して披露される。岩穴祭での披露の後、校区内にある馬頭観音に向いて踊るのも慣習となっている。また、岩穴祭を見に行けない住民もいることから、岩穴祭に先立って小学校の校庭で踊り、岩穴祭終了後に各集落で行われる「春祈念」でも踊るなど、広く校

区の住民にもその取組をアピールして保存の気運を高めている。

また、市の女性大会などの出演依頼にも応えており、新聞でも毎年のように報道されていることから、広く全県下で知られるようになってきている。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校教育における伝承活動が難しい状況があったため、保存会と育成会が連携して、学校開放の形で夜間に練習をしている。また、育成会が練習用のDVDを作成し、各家庭に配布し、家でも練習することができるようにしている。

伝承者が高齢になってきたため、小学生時代に踊った経験のある地元の成人女性に踊りの指導を依頼し、毎年指導に当たっていただいている。また、伴奏者がそろわなくても練習や発表ができるように、伴奏をCDに保存して活用している。最近では伴奏者の後継者育成についての話し合いももたれるようになってきているが、難しい状況が続いている。

## 7 取組の様子



溝ノ口洞穴前での奴踊り披露  
(溝ノ口洞穴 令和5年4月9日実施)



曾於市女性大会オープニングでの奴踊り披露  
(末吉総合センター 令和5年2月5日実施)

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### 【児童】

大勢の前で踊るのはとても緊張するけれど、練習のとおりうまく踊れてよかった。もっと練習してうまくなり、先輩方が引き継いできた奴踊りをしっかりと引き継いでいきたい。

### 【保護者】

パワースポットとして注目されている神秘的な洞穴で、自分の子供たちが注目を浴びて活躍している姿は誇らしいし、子供たちの自信にもつながると思う。

### 【保存会から】

昔、小・中学生として踊っていた人たちが、今では青年となって棒踊り（刀踊り）を披露する立場になっている。今の子供たちもやがては故郷で大人の踊りを踊ったり、奴踊りを伝えたりしてほしい。

### 【教職員】

大勢の観客の前で踊ることは、児童にとって、非常によい体験となっている。これからも取組を継続してほしい。